

# 2024年度一般入学試験問題

## 国語

(2月13日)

開始時刻 午後1時00分

終了時刻 午後2時00分

### 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この冊子は17ページです。落丁、乱丁、印刷の不鮮明及び解答用紙の汚れなどがあった場合には申し出てください。
3. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督員の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。

① 受験番号欄

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

② 氏名欄

氏名とフリガナを記入してください。

4. 解答は解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、

10
----

と表示のある問いに対して◎と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の◎にマークしてください。

(例)

10	◎	○	○	○	○
----	---	---	---	---	---

5. 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいません。
6. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。





一 次の記事を読んで、問一〜九に答えなさい。

動物やヒトの仲間どうしのあいだでコミュニケーションが成立したというのは、本当は何が起こっているのかを、少し体系立てて考えてみることにしよう。実は、その過程で生じていることの性質によって、三通りぐらいの違った類型にタイプ分けできると考えられている。

そのなかでもっとも初歩的と思われるコミュニケーションのパターンは、ヒトや動物の自律反応を媒介として成立している。たとえば、いまわれわれが恐怖の情動を抱いたとしよう。われわれの身体は直ちに、恐怖をひきおこした当の対象からの脱出を可能にする準備状態をつくり出すように作動する。【①】すなわち、ノルエピネフリン（ノルアドレナリン）やコーチゾルといった一連の生理活性物質が、大量に血中に放出される。それらは、(1)血糖値を上昇させ、(2)感染やショックに対する抵抗力を高め、(3)心収縮を強めて血圧を維持し、組織への血液供給を増進する、等々の多様な現象をひきおこして、火急事態に対する生体の適応反応を促す作用に重要な役目を果たす。【②】その動物を外界から見れば、たとえば瞳孔の拡大がケンチヨとなる。瞳が広がることは、その分生体に入力される視覚情報が増大することを意味する。【③】ある調査によると、アメリカの大リーグの野球選手のなかで、打者として高打率を残している者ほど、バッターボックスのなかでよく目を見ひらいているという。

瞳孔の拡大は当然、周囲にいる仲間<sup>イ</sup>に知覚されることになる。【④】このとき、仲間の目にとまった自律反応のチヨウコウと、当の動物の置かれている状況とを結びつけて認知することができたならば、瞳の開き具合から、彼が恐怖を抱いているという内部状態の読みとり<sup>イ</sup>に成功したことになる。【⑤】個体<sup>ウ</sup>がみずからの生存のために一次的に適応した反応パターンは、その個体が好むと好まざるとにかかわらず、受け手によって信号として二次的に解読される。これは視覚に限らず、嗅覚や聴覚といった他の感覚系についても、【W】にあてはまる。たとえば、心拍の増大は体温の上昇をうながし、その結果、発汗が盛んになるだろう。汗のなかには老廃物として特定の物質がふくまれているので、嗅覚的感受性がある程度以上高ければ、個体の緊張度がおしはかれるに違いない。また、興奮に伴って呼吸運動も激化する。気管からの激しい空気の流入が音声となって現われると、聴覚を通じての読みとりが行われることとなるのである。

次に表出行動の第二段階として、ある特定の生体反応や行動が、まさに仲間への情報の伝達という機能のために特異的なパターンを取るように進化した、という事例が多く存在する。たとえば、繁殖や採食のためにオスがなわばり（テリトリー）を形成する鳥や哺乳動物では、普通そのなわばりの持ち主が定期的に派手なさえずりを行ったり、吠え<sup>マ</sup>声を発したりする。これらの音声は、テリトリー・ソング、あるいはテリトリー・コールという名で知られている。【X】つまりテリトリー・ソング（コール）は、近傍の同種に聞かれること

によってのみ、発し手に利益をもたらすのだから、【Y】としての機能をもっているとみなすことができる。

とはいうものの、ただこれだけでは、われわれが「真の意味で」コミュニケーションと考えているものとの間には、まだギャップがある。通常ヒトの行うコミュニケーションでは当然、(1)表出の意味が受け手によって、当を得て理解されていなければならない。しかしことばによるコミュニケーションでは、それと同時に、(2)行動を行う主体が、自らの表出の意味表現性を把握して、それを意図的に伝達のためにもちいていなくてはならない。今まで述べた第二段階としての伝達行動は、情動あるいは主体的感覚状態が Z に反映された動きにすぎない。動物は往々にして、われわれの想像を超える高度の情報処理能力をもっており、たとえば興奮のあまり息が荒くなった結果思わずのどから出してしまうというような、伝達を意図しないで出される声を耳にしたときですら、発声主体の内部状態にかかわる情報を読みこみ、次の振舞いを予測して、もっぱら自己にとってつごうの良い\*対応の仕方を選択する。この場合機能的に見れば、コミュニケーションの役割が果たされたことになるところで、それはまだ先の二条件をみたく伝達が行なわれたことにはならないのは明白である。

それゆえ、言語行動のルーツをヒト以外の動物に求めるとすれば、まずヒト以外の動物もまた意図的なコミュニケーションを行いうるのかということとを考える必要に迫られる。今までのところ、ある動物が意図してある種の身ぶりやしぐさを用い、仲間に伝達をクワダ<sup>ウ</sup>てるといふ事例はまったく知られていない。同様に動物が、匂いの放出を随意的に行ない<sup>C</sup>うことを証明した研究もない。

(正高信男『0歳児がことばを獲得するとき―行動学からのアプローチ』による。設問の関係上、本文を改めたところに\*を付した。)

問一 傍線部ア～ウと同じ漢字を含むものを、次の(a)～(e)のうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが

イが 、ウが 。

ア ケン|チヨ  
ア ケン|チヨ

- (a) ケン|ポウ第九条
- (b) ケン|ビキヨウで観察する
- (c) ポウ|ケンの旅に出る
- (d) 政治のジツ|ケンを握る
- (e) シュト|ケンの住宅事情

イ チョウ|コウ

- (a) 大学でコウ|ギを受ける
- (b) ノウ|コウ民族
- (c) 薬のコウ|ノウを確かめる
- (d) 国からのコウ|フ金を受け取る
- (e) 手紙にジ|コウのあいさつを付ける

ウ クワ|ダてる

- (a) ポウ|リヤクをめぐらせる
- (b) カイ|ケイ報告する
- (c) イベントのキ|カク書を提出する
- (d) 国会でシン|ギする
- (e) シ|モン機関に意見を求める

問二 次の文は、本文の【①】～【⑤】のどこに入るか。次の(a)～(e)のうちから一つを選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

。

非常事態に即して、まず注意を十分にはらうために周囲をよく見るといふ行動がきわめて肝要であることはいうまでもない。

- (a) 【①】
- (b) 【②】
- (c) 【③】
- (d) 【④】
- (e) 【⑤】

問三 文中の空欄

5。

W

に入る言葉として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

- (a) 感覚的
- (b) 普遍的
- (c) 生物的
- (d) 限定的
- (e) 特権的

問四

文中の空欄

X

には、次の①～⑥の各文が入る。正しい順に並べるとすれば、どれが最も適切か。次の(a)～(e)のうちから一つ選

び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

6。

- ① 音は当然隣りのなわばりのオスの耳に達する。
- ② そして隣のオスとの接触を回避しようと努める。
- ③ 結局、音の発し手のなわばりが確保される確率が高くなる。
- ④ オスがなわばりを形成して、隣接したなわばり内の他のオスの存在が認められると、それが刺激となってこの発声行動は機械的に起きる。
- ⑤ しかし、大きく声をたてるという運動は、それ自体第一次的に生体の生存に貢献しているとは考えにくい。
- ⑥ 彼は、よほどのリスクを冒さない限り、自分のなわばりをこれ以上拡張することは大変だと分かる。

(e)	(d)	(c)	(b)	(a)
④	④	①	①	①
↓	↓	↓	↓	↓
⑥	⑤	⑤	②	④
↓	↓	↓	↓	↓
①	①	④	⑥	⑥
↓	↓	↓	↓	↓
⑤	⑥	②	③	②
↓	↓	↓	↓	↓
③	②	③	④	⑤
↓	↓	↓	↓	↓
②	③	⑥	⑤	③

問五 文中の空欄

Y

に入る言葉として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

7

- (a) 信号
- (b) 確認
- (c) 反応
- (d) 攻撃
- (e) 誘惑

問六

傍線部A「(テリトリー・ソングが)「真の意味で」コミュニケーションと考えているものとの間には、まだギャップがある」と筆者が考えて

いるのはなぜか。その理由として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

8

- (a) テリトリー・ソングは、なわばりを形成する鳥や哺乳動物の間だけに見られるものであり、人間同士のコミュニケーションの中では使用されないから。
- (b) テリトリー・ソングは、仲間への伝達という機能のために特異的なパターンをとるように進化したものであり、一般的なコミュニケーションの形態とは異質なものであるから。
- (c) テリトリー・ソングは、表出された意味が受け手によって判断されるため、コミュニケーションが十分に成立するとは限らないから。
- (d) コミュニケーションは、主体が、自らの表出の意味がもっている表現性を把握して、それを意図的に伝達するために用いなければならないものであるから。
- (e) コミュニケーションの成立には、表出の発し手とその受け手の双方が存在することが不可欠の条件であるが、テリトリー・ソングでは、表出が本当に受け手に届いているのが判然としないから。



問七 傍線部B「当を得て」は、文中ではどのような意味で用いられているか。最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号を

マークしなさい。解答番号は、。

- (a) 当選したものとして
- (b) 自分勝手なものとして
- (c) 意外なものとして
- (d) 完全なものとして
- (e) 妥当なものとして

問八 文中の空欄  に入る言葉として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

。

- (a) 直接的
- (b) 独占的
- (c) 一方的
- (d) 特権的
- (e) 間接的

問九 傍線部C「随意」を、打ち消しの意味をもった熟語にするには、次のどれをつければよいか。最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選

び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、。

- (a) 未
- (b) 無
- (c) 超
- (d) 反
- (e) 不

次の文章を読んで、問一〜七に答えなさい。

(注1) 彼がフィールドにしている上野村において時間は、ときに荒々しく、ときに漂うように流れている。村人たちの畑仕事には濃密な時間とまるで惚け<sup>ほう</sup>たような時間がある。ここには、賃労働を支配するような「時計の時間」<sup>A</sup>ではなく、揺らぎゆく時間が成立しているという。また人びとは、不可逆的な縦軸の時間とともに、一年前と同じ春や秋がふたたび回帰し、去年と同じ春の畑仕事や秋の収穫を繰り返す。今年も実りの秋を迎えたという喜びは、村人たちみなのものである。自家消費用の畑の作物は、自分が必要としている量の二倍つくるのが農家の自然の慣習で、余った分は知人に配ったり、不作の家があったときはそこへ回したりするのが普通だという。内山はこれを、農民の「アソビ」であると指摘する。だが、みなで実りを分かち合う暮らしの豊かさは、作物が商品として出荷された瞬間に消え去り、数カ月かけて育てた作物の対価としてはあまりにも少ない貨幣へと還元されてしまう。だから、上野村の人びとは必ずしもすべての作物を商品として出荷しないし、仕事を時間あたりの労働投下で換算しうる「稼ぎ」とは異なるものとしているのだという。

### Living for Today <sup>B</sup>ナンジュ

タンザニアの焼畑農村は、四季折々で変化をみせる日本の「里山」とはずいぶん自然のリズムが異なるが、「〇〇さんはお変わりありませんか」という挨拶が、対面する相手自身から始まり、家族、友人、隣人、健康、仕事に至るまで長々と確認されていく世界は、刻々と変化する縦軸の時間よりも、横軸の時間のほうが優先しているようにみえる。少なくとも商品経済が現在より浸透していなかった一九七〇年代には、時計の時間で農業を営み、時間あたりの労働力の投入量にふさわしい収穫や富を得るといった感覚は希薄だっただろう。

だが、タンザニアの農村のアソビは、上野村の人びとのように「収穫とともに実りの時期を迎えたみなものだ」「余剰分は不作の農家に回す」を前提に成り立ってはいないようだ。それならば、「最少努力」で臨まずに、上野村の人びとと同じように自家消費量の二倍の作物を作ればよいように思う。むしろアフリカ農村のアソビは、不作の年もあるし、みなが同じように生産できず、食べられない人びとが生まれることを知りつつも、何らかの共同体的な関係を前提としてどれくらい生産するかをあらかじめ計画しない点、すなわち「どうかになったら、そのときにタイシヨ<sup>ア</sup>する」という Living for Today の生き方から出発しているのではないだろうか。そう考えると、嫉妬やうらみによる平準化の圧力は抑圧ではなく、自然や社会との関係的に存在する時間を操る生き方の技法として解釈を展開できる。

わたしは、農村から貧しい出稼ぎ民が流れてくるタンザニアの都市居住区に住んでいた頃、昼ときよりもずっと早い時間に来た客人を延々と引き止

め、「ご飯を食べていけ。食べていくまで帰さない」などと説得する場面に頻繁に出くわした。路肩でご飯を食べている見知らぬ人から、突然「一緒に食べよう」と食べかけの皿を差し出されたことも何度もある。

ただ、家族ですら食べるのがやつとな家計に余裕などないので、じつさいに客が何人も頻繁に来れば、自分たちの食べるものがなくなる。また、いつも客人をもてなすのが好きなわけでもないようで、米や肉など高価な食べ物はビニール袋を二重にしてばれないように買ってくるし、近所の人に目撃されると、いかにお値打ちだったかを説明して、ねだられたり嫉妬されたりしないように気を配っていた。

つまり彼らは、来てしまった客や、ご飯を食べているのを見られてしまった人を、そのときに食べているものを分け与えることでもてなす、あるいは嫉妬をかわすのであり、それはホスピタリティであり、<sup>(注2)</sup> 社会関係をやりくりする Y でもある。分け与えることはあらかじめ予想した出来事と

いうより、降りかかってくる定めである。そして、そのような偶然や出会いにタイショすることが、ときには楽しみになっている。来るかどうかかわからない客である限りは、余剰を準備したり思い悩んでも仕方がないし、起きてしまったことは何とかタイショしなくてはならない。さらにその結果、わが身が困った事態におかれても、何らかの用事をひねり出して誰かの家を訪問したり、さりげなく誰かに分けてもらうことができる。

ふだんは「何とかなるはずだ」という信念にみずからの生存を懸け、過度に自然や社会関係を改変せず、未来に思い悩まず「自然」のリズムでまったり暮らしながらも、いざというときは、呪術や超自然的な事象との関係も駆使して切り抜ける。そのように解釈すると、彼らはたゆまぬ時間の流れのなかにカンキユウを生み出しながら、なかなかスリリングに生きている、<sup>D</sup> 時間をあやつる達人のようにもみえるのだ。

(小川さやか「その日暮らし」の人類学 もう一つの資本主義経済』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。)

(注) 1 彼——哲学者、内山節。群馬県多野郡上野村を手がかりとした著作がある。

2 ホスピタリティ——心のこもった手厚いもてなし。歓待の精神。

問一 傍線部ア、イの漢字と同じ漢字を含むものを、次の(a)～(e)のうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが

12、イが 13。

- |   |      |     |        |         |  |
|---|------|-----|--------|---------|--|
| ア | タイシヨ |     |        |         |  |
|   |      | (a) | ユイシヨ   | 正しい品    |  |
|   |      | (b) | シヨシ    | 貫徹する    |  |
|   |      | (c) | シヨセイ上  | の教訓になった |  |
|   |      | (d) | 優雅なシヨサ | で立ち上がる  |  |
|   |      | (e) | シヨミン   | の味方     |  |
|   |      |     | イ      | カンキユウ   |  |
|   |      | (a) | カカン    | に敵をせめる  |  |
|   |      | (b) | 城がカン   | ラクした    |  |
|   |      | (c) | 政策をテン  | カンする    |  |
|   |      | (d) | 荷物を守る  | カンシヨウ材  |  |
|   |      | (e) | 以前のカン  | コウが復活した |  |

問二 傍線部A「時計の時間」を説明したものとして最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号

は、 14。

- (a) きわめて濃密な時間
- (b) 常に同じように流れる時間
- (c) のんびりと余暇を楽しむ時間
- (d) 繰り返し回帰する時間
- (e) 村人たちみな喜びの時間

問三 空欄 X に入る表現として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 15。

- (a) 円環的
- (b) 可逆的
- (c) 直線的
- (d) 恒常的
- (e) 斉一的

問四

傍線部B「アソビ」とあるが、タンザニアの農村のアソビと上野村のアソビの違いを説明したものとして最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

16。

(a) タンザニアのアソビは、自分が食べられなくても相手と食事を分かち合う考えであり、上野村のアソビは、自分が必要とするもの以上を生産する考え方である。

(b) タンザニアのアソビは、社会関係をどうにかやりくりする生き方であるのに対し、上野村のアソビは村の中で協働して生き抜いていく知恵である。

(c) タンザニアのアソビは、横軸の時間を優先する生き方であるのに比べ、上野村のアソビは不可逆な縦軸の時間を生きる生き方である。

(d) 上野村のアソビは、将来を見越して備える生き方であるのに対し、タンザニアのアソビは、その場で起こった事態を切り抜けていく生き方である。

(e) 上野村のアソビは、仕事と「稼ぎ」を区別して、全てを「稼ぎ」としない考え方であるのに対し、タンザニアのアソビは、「収穫はともに実りの時期を迎えたみなものだ」という考え方である。

問五

傍線部C「食べかけの皿を差し出された」とあるが、見知らぬ人がそのような行動をした理由として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

17。

(a) 自分の身に困難がふりかかった場合でも、さりげなく誰かに分けてもらうことを期待しているから。

(b) 余裕がある場合には、食べ物を分けることがタンザニアの人にとって当然の行動だから。

(c) タンザニアの都市居住区にあつては、ご飯と一緒に食べることが互いに嫉妬する方法だから。

(d) たまたま出会った人に食事を分け与えることが、一種の楽しみになっているから。

(e) 偶然見られたことによって、食べ物を分け与えなければならない関係が生じたと考えたから。

問六 空欄 Y

に入る表現として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

18

(a) 出来事

(b) 説明

(c) 場面

(d) 感覚

(e) 技法

問七

傍線部D「時間をあやつる達人」とあるが、上野村の人々とタンザニアの人々では時間の使い方がどのように違うと言っているか。最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

19

(a) 上野村では毎年同じ流れで時間が経過するが、タンザニアでは毎年異なった事態が生じ、それによって過ごす時間が異なっている。

(b) 上野村では、村全体として忙しい時間と惚けたような時間を過ごしているが、タンザニアでは、自然のリズムにまかせながらも、起こった事態に対しては、時間を生み出している。

(c) 上野村の人は、働いた結果としての作物を出荷しない選択肢を持つのに対し、タンザニアの人には時間あたりの労働力にふさわしい対価を得る感覚が希薄である。

(d) 上野村の人々は一定の計画の中で時間をあやつっているが、タンザニアの人々は起きてしまった事態を上手に切り抜けることで時間に変化をつけている。

(e) 上野村においては、二倍量の作物を作ることと不作をかわしているが、タンザニアでは最小努力によって食べ物を確保している。

メ モ

試験問題は次に続く。

次の文章を読んで、問一〜七に答えなさい。

その男は、演壇から見て左手の、前から五列目の中程の席すゐに坐すわっていた。

おそらくは混じりはじめた白髪はくはつのせいで濃い灰色に見える豊かな髪。色白で額の秀でた端正な顔。もしかしたら籠甲べつこうかもしれない太縁たゑんの眼鏡。生地も仕立ても上等そうな薄茶色のチェックの上着。白いワイシャツえんじに嚙脂えんじのネクタイ——それにしても三、四百人の聴衆から浮き上って目立つほどの容姿みせでもなく、また、その顔になにやら見憶みおぼえのあるような気がしたわけでもなかったのだが、私は、演壇に上った直後からその男の存在しんざいに気づいてた。

私は、人前で話すのが不得手で、演壇に上るとついうつむきがちになるが、だから話がグチアっぽくきこえると人にいわれてからは、気がつくたびに顔を上げて、漠然と聴衆を見回すように心掛こころかけている。時には、見回しそこねて、そのうちの一人の顔にわけもなく目を留めたままアにいることもある。

その晩、演壇に上って、最初に顔を上げたとき、左手の五列目の席えんじにいるその男と目が合ったのは、ただの偶然にすぎなかった。ふと目をやると、そこにその男がいて私に強い視線を向けていたのである。けれども、目が合ったのはほんの一瞬しゅんだけで、相手はなにやらうろたえたように瞬しゅんきをすると、すぐに私から目をそらした。

私は、話の前置きに、その土地の印象を語った。そこは本州の北端の県の、日本海側にある小都市で、私には初めてのまちであった。実は、私もおなじ県内の生まれなのだが、私の育った土地は反対側の太平洋岸で、このまちとは県の両端りょうたんとっていいほど離れている。私の郷里きょうりからここへくるには、途中で二度も汽車を乗り換えなければならない。私は二十になるまで郷里きょうりにいたが、こことはなんの縁ゆかりもなく、ただ他県とおなじくらいに遠い土地だと思おもって過あごした。

ところが、郷里を離れて三十年もしてから、私は招きを受けてこのまちへくることになった。もし、ここが郷里の近くでなかったら、私は不得手な仕事をあっさり辞退しじたいしていただろう。私は、仕事を終えたらこの市のホテルに一泊し、翌日は郷里へ回まわって、数年前からそこで寝たきりになっている病人を見舞みまって帰ろうと思おもっていた。

しばらくして、二度目にその男と視線を合わせたのは、不意に会場の窓の外から場違いな大声が飛び込んできて聴衆を驚かせたときであった。その市では、ちょうど市議会議員の選挙戦のさなかで、街には候補者を乗せた車がマイクロホンの声を響かせながら行き交かっていたが、そのうちの一台



が、まるで公会堂に集まっている聴衆を狙ったかのように、突然音量を上げて候補者の名を連呼しながら、のろのろと窓の下を通ったのである。聴衆の間に失笑のざわめきがひろがり、私は話を中断してその声を通り過ぎるのを待った。

会場が再び静かになったとき、私はふと、以前誰かに聞いた今は亡き老大家の名人芸を思い出して、それを話の継ぎ穂にした。その老大家は、酒氣を帯びて登壇して、話の途中で居眠りをする癖がある。話がとだえて、いつまでもチンモクがつづくので、立ち往生かと袖から見ると、両手で演卓の縁をしつかりと掴んで、軀を前後にゆらりゆらりさせながら居眠りをしている。驚いて、連絡用の紙きれを片手に出て行って、それを渡すふりをしながら蔭で尻を突つくと、老大家はぼつちりと目醒めて、まさにさつきとだえたところから何事もなかったように話をつづける。これはもはや名人芸とでもいうほかはない……。

聴衆は笑った。

そのとき、私の目がひとりで動いて、その男を見た。べつに見る気で見たのではなく、目が勝手に左手の方へ滑って行って、その男の顔に留まったのである。彼も笑っていたが、目が合うと、どぎまぎしたように笑いを消して、うつむいた。

私は一時間ほど話したが、その間、何度かその男と目を合わせた。自分ではそうしようと思わなくても、目がひとりで見ってしまうのだから、仕方なかった。そのたびに、相手があわてたように瞬きをしたり、拳を口に当てて軽い咳をしたりして、すぐに目をそらすのを見ても、私はべつに不自然だとも思わなかった。聴衆が演壇に注目しているのは普通で、演壇の上から聴衆の一人にしばしば目を留める方が、おかしいといえはおかしい。私は、その男と目を合わせるたびに、また見てしまった、相手が困っているのに、なぜ見るのだろう、と自分を咎めるような気持ちになった。それから、何度目かに、あの男、誰かに似ているな、と頭の隅で思った。時々見かける誰かに似ている。けれども、それが誰なのかは思い出せなかった。

## 二

そうか、テレビでよく見るピアノ弾きに似ているのだ。そう気がついたのは、演壇を降りて、舞台裏の洗面所で汗を拭いていたときであった。

テレビに出てきて、にこにこしながらジャズピアノを弾いたりする小柄な初老の男。さつき客席にいた男は私と同年輩で、初老と呼ぶにはまだ早すぎるが、灰色の豊かな髪や眼鏡の感じがあのピアノ弾きに似ている。あの男とよく目が合ったのは、そんな記憶にそそのかされたせいだろうか、と私は思った。

私のほかには誰もいない、白いタイル張りの洗面所は、うそ寒いほどに明るくて、生き延びた蟋蟀が一匹、X ようないい声をあたりに響かせていた。それが演壇を降りてきたばかりのなにか虚しい身に滲みて、私は洗面台に張った水に両手を漬けたまま、しばらく頭を垂れてじつとしていた。鳴き声の大きさからすれば、図体が甲虫ほどもありそんな蟋蟀であったが、姿はどこにも見えなかった。

控室に戻ると、主催者の文化団体の重立った人たちが熱いコーヒーで私をねぎらってくれた。このあと、慰労と懇親を兼ねて街の料理屋に一席設けてあるということだったが、それまでにはまだ一時間ほど間があるというので、私は一旦ホテルへ戻ることにした。

(三浦哲郎『蟹屋の土産』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。)

問一 傍線部ア、イの漢字と同じ漢字を含むものを、次の(a)～(e)のうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが

20、イが 21。

ア グチ

- (a) ゼツタイチを求める
- (b) 列車がチエンする
- (c) チノウの発達
- (d) チメイテキな失敗
- (e) オンチは直せる

イ チンモク

- (a) チンチャクな行動
- (b) 議会にチンジョウする
- (c) この食材はチンチヨウされている
- (d) 財界のジュウチン
- (e) チンタイ住宅に住む

問二 傍線部A「気がつくたびに顔を上げて、漠然と聴衆を見回すように心掛けている」理由として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選

び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 22。

- (a) 聴衆に対して自分をよく見せようとしているため。
- (b) 視線の向きによって、話の印象もよくなったり悪くなったりするため。
- (c) 聴衆を注視しすぎると緊張してしまうので、緊張しすぎないように漫然と見るよう心がけているため。
- (d) とにかく顔を上げていさえすれば、聞き手にはポジティブに聞こえるため。
- (e) 聞き手は自分の顔を見てくれると感じると、話し手の話に説得力を感じるため。

問三 主人公「私」が訪れた「市」について、「まち」と「街」という表現の仕方できき分けている。この使い分けの説明として最も適切なものを、

次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、23。

- ① 想い出の中にある「まち」と現実の前にある「街」
- ② 市全体の「まち」と一区画を示した「街」
- ③ 市のうちの繁華街を「まち」、そうでない地域を「街」
- ④ 行政区分としての「まち」と自分がいるところの「街」
- ⑤ 遠いところを「まち」、近いところを「街」

問四 傍線部B「その老大家は、酒気を帯びて登壇して、話の途中で居眠りをする癖がある。……（後略）」が現在形で書かれていることの効果と

して最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、24。

- ① 過去形の中の現在形とすることで、逆に、さらに過去と感ずるようになっていく。
- ② 読み手が、今、目の前で老大家が話しているような気持ちになるようになっていく。
- ③ 老大家の行動を、自然で流れるような音としてイメージできるようにしている。
- ④ 「話の接ぎ穂」として、目立たなくなるようになっていく。
- ⑤ 挿話と講演時の文章が混ざり合って、読みやすくなっている。

問五 傍線部C「うそ寒い」の意味の説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

25。

- ① 全く寒くない。
- ② 寒いといっているが、それは嘘である。
- ③ 何となく寒い気がする。
- ④ 我慢できないほどではないが、寒いことは寒い。
- ⑤ 我慢できないくらい寒い。

問六 空欄

X

に当てはまる言葉として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

26。

- (a) 悲しくなる
- (b) たのしくなる
- (c) いらっとする
- (d) びっくりする
- (e) 心配になる

問七

「その男」に関わる「私」の心情の変化の説明として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解

答番号は、

27。

- (a) 目が合うことを偶然によるものと思っていたが、誰かに似ていると気になるようになり、その後心当たりが浮かび上がり安心することができた。
- (b) 目が合うことを偶然によるものと思っていたが、誰かに似ているからだと思いなおし、目が合ったことに納得することができた。
- (c) 誰かに似ていると思っていたら目が何回も合ってしまったが、それをただの偶然と思うようにすることで気にしないようにしようと考えていた。
- (d) 偶然に目が合ってしまうことに、しだいに罪悪感を抱くようになり、その後ある人に似ていると思うことで目が合うことを正当化しようと考えた。
- (e) 偶然に目が合ってしまうことに、しだいに罪悪感を抱くようになったが、その後似ている人が見つかったので安心した。







